

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	17
		決裁期日	平成23年4月13日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第1回）		
日 時	平成23年4月12日（火） 午後6時30分～午後8時45分		
場 所	保健福祉総合センター2階研修室		
出席者	委員10人 町民生活課事務局3人 合計13名		

## 内 容

## 〔進行：町民生活課長〕

町民生活課長から、委員の欠席理由と欠席連絡のあった委員について報告。

## あいさつ

三島会長： 今年度は協働事例の検討を中心に行っていきたい。また、今回は広報の原稿について話し合っていきたいと思う。

課長から自己紹介を行う。

町民生活課長： 商工会から推薦されていた境委員が3月をもって商工会を退職したため、団体推薦であることから、新たに近野委員が選出された。今回は欠席なので次回挨拶をいただきたい。では、要綱に基づき、ここから先は会長が進行する。

## 議 題

## 1 協働のまちづくり行動指針（職員用手引き）について

吉岡主幹から協働のまちづくり行動指針（職員用手引き）について説明。

三島会長： 何か質問はあるだろうか。

持安委員： 政策調整会議や課長会議で、どんなことが話し合われているのかはどのように情報提供していただけるのだろうか。

吉岡主幹： 随時、情報共有していきたい。

島瀬委員： 職員用手引きは完成した後、どこかで協議したのだろうか。また、職員に渡した後、話し合いが何かを行うのか。

吉岡主幹： 職員行動指針の検討委員会を昨年3月まで行っていたが、協働のマニュアルになるものが入っていなかったため、作り直した。しかし、実際に自分たちでやっている協働事業がなかったため、建設水道課の公園管理事業がまとまってからマニュアルを作った。今後は職員用手引きを基に全職員に研修を行う予定である。1時間から1時間半の研修を受けてもらうようにしたいと思う。

島瀬委員： 職員であれば、誰かに協働のことを聞かれても答えられるくらいになってほしいと思う。

松下副会長： どこかで評価をしようと思うのだが、具体的な評価の方法は決まっていないのだろうか。

吉岡主幹： まず、双方の団体が評価シートで評価し、その後、推進委員会や政策調整会議や課

長会議でも評価を行い町民の皆さんにお知らせする。しかし、具体的に事業をやってみないことにはわからない部分が多い。

## 2 講演会の開催について

吉岡主幹から資料に基づき説明。

- ・ 東田氏は講演の後にワークショップをすることも可能。
- ・ その他の方は資料が見つからなかったが、大学の教授に講演を依頼することもできる。

吉岡主幹： 今回は少ない参加者で講演を行い、その後、ワークショップをすることもありだと思う。また、次回までにいい方が見つければ報告したいと思う。日時については11月を予定している。

島瀬委員： 講師にもよると思うが、どれくらい前に決めておけばいいのだろうか。

吉岡主幹： 東田氏は5～6月までに決めておけば大丈夫だと思う。

三島会長： 次回までにいい方いればということもあるので、次回も話し合いたいと思う。

## 3 広報かみふらのお知らせ版4月号の掲載内容と5月号以降の内容について

吉岡主幹： 4月号については、資料をさらに直して委員の皆さんにお見せしたいと思う。また、今はなぜ協働が必要かを書いてあるが、協働とは何かを書いていくこともいいかと思う。5月号以降については、前回の会議でいろいろな意見が出てまとまっていなかったため、再度ご意見いただきたい。

持安委員： 前回話したときは、今ある事例も含めて、これからこんなことがあってもいいのではないかということ話をした。これから協働を進めていく段階なので、理想のものを追い求めることも1つの方法かと思う。例えば、今問題になっている少子高齢化や地域コミュニティが希薄化しているということ解決したら町の姿はどうなるのか、そうするためにはどうしたらいいのか、この委員会で話し合うことも1つの方法かと思う。

三島会長： 上富良野でも社会福祉協議会で徘徊の登録制ネットワークを作っている。

吉岡主幹： 知的障害の方が行方不明ということも度々あった。また、子育て支援などで困っている親がたくさんいる。

久我委員： このような課題を解決するためにも、誰でもいつでも集まれる場所が必要だと思う。そのことについて持安委員が前回、ワークショップのようにして話し合ってみたいといったと思う。

持安委員： 地域そのものが施設というか場所になればいい。そのためには拠点が必要で、町内会くらいの規模のネットワークを作るといい。そういったようなことを、一つの事業として町民、行政、事業者がどうしていくかをみんなで話し合うことも一つの手段かと思う。そして、そこにいたるための手順を考えていくといいのではないかと思う。

吉岡主幹： 以前、久我委員が地域の範囲内にそういうところがあればいいという話をしていた。

三島会長： 託老も中茶屋や子どもセンターに近い人しか来ていない。

持安委員： 集うことは大切で、顔が見える関係ができる。そうしなければ自分の生活で困ったことが言えない。困ったことを言うことで困ったことを解決する人が出てくるので、そういった人が増えていくことでネットワークができる。このように、支え合える力がある地域づくりをテーマにして話し合うことで協働の事例を作っていくこともできると思う。

三島会長： かみんの喫茶コーナーも、どこからでも来てもいいと言っても、知らない人ばかりなら来ない。

島瀬委員： 町内会や住民会の単位でもいいので、集う拠点を維持管理する人がいなければいけない。小さい単位の方が話し合いはしやすいだろうが、職員などが管理していくならば難しい

と思う。

瀬川委員： この委員会の人は比較的多くの情報を持っていると思うのが、町内には知らない人のほう多いと思う。次の展開に行くよりも今やっていることをしっかり紹介していったほうがいいと思う。今やっている事業だけでも十分活用できれば、今言われていた問題も解決できるかもしれない。もちろん新しいことをやっていくこともいいが、5月号は今やっていることを紹介していくといいと思う。

吉岡主幹： そうであれば持安委員の意見を後に回せるので検討する時間ができると思う。

持安委員： 先ほどの瀬川委員の意見に賛成で、今あるものを知ってもらいたいと思う。

吉岡主幹： 4月号はこれを直したものにし、5月号は今あるものを紹介したい。それ以降は高齢化のワークショップをはじめのテーマに話し合いたい。

三島会長： では、この内容でいきたいと思う。

#### 4 今後のスケジュール

吉岡主幹： 今年度の委員会は6回程度の開催を予定していましたが、前回の委員会で少なすぎるといけないかという意見があった。月に1回程度でもいいのではないかという意見もあったがどうだろうか。

三島会長： 9月くらいまでは月1回でやっていくのはどうだろうか。

島瀬委員： 会議をしていくうえで協議事項が出てくれば開催するといいいのではないか。今後の予定については具体的でなくてもいいので、来月、再来月くらいまで決めておけばいいと思う。

三島会長： それでは必要性があれば開催していくこととする。

#### 5 その他

持安委員： 3月の行った講演会はどうだっただろうか。

久我委員： いいものだった。特に東川町の事例で「生活介護支援サポーター養成講座」というものを道の助成金を受けて講座を6回開き、それに応募した人たちが高齢者世帯の生活をサポートする事業がいいと思った。次の日電話し、報酬をどうしているか聞くと1日2軒お年寄りを訪問し、燃料代として千円渡しているということだった。安心サポーターのいいところは、朝行った時に具合が悪そうで、もう一度行くと救急搬送するような状態で、すぐ医療に結び付けられたということだった。悪い方の例は、1回目に行ってみるといなくて、2回目に行ってみてもいなかった。3回目に行ってみるとソファの上で横になっていたのが安心だという報告を社会福祉協議会にしているが、来られた方は家の中を覗かれているような気がしていやだという苦情もあった。しかし、サポーターの活動は東川町にとって頼りになるいいサービスだということで発表していた。また、講演は最後の結びの言葉で「会いたい人がいること」「行くところがあること」「することがあること」が人間にとって変わらず持ち続けたいことだというお話をされていた。

三島会長： 次回会議は5月13日（金）に開催したいと思う。

閉 会 [ 会議終了 : 20 時 45 分 ]

## 上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

1

	所属団体・機関の名称	氏名	備考	4月12日
1	住民会長連合会	上村 勉		
2	住民会長連合会	松下 力		
3	社会福祉協議会	持安 弘行		
4	NPO法人たんぽぽの会	三島 功士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬川 英樹		
6	商工会	近野 直紀		
7	生活安全推進協議会	島瀬 良一		
8	女性連絡協議会	中澤 正子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥田 哲也		
10	公募	大内 和行		
11	公募	徳武 良弘		
12	公募	久我 みち子		
13	公募	平倉 範子		